

平成 22 年 9 月 15 日

ルネサンス高等学校

校長 犬塚 清和



平成 21 年度 ルネサンス高等学校 自己評価書

1. 学校の概況（平成 22 年 3 月 31 日現在）

学校名	ルネサンス高等学校	課程	広域通信制・単位制・普通科		
学校長	犬塚 清和	教職員	教頭 1 名	事務長 1 名	合計 22 名
			教諭 14 名	職員 6 名	
生徒数	【入学定員 2,000 名】		計 1,193 名		

○平成 21 年度スクーリング参加生徒数：989 名

（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日に行われたスクーリング全 44 回に参加した生徒数の合計。

入学時期等により平成 22 年 4 月 1 日以降のスクーリングに参加する生徒あり。）

○卒業生：開校以来通算 693 名（平成 22 年 3 月現在）

○卒業生の進路（平成 21 年度）：大学・専門学校等への進学 44.2%、就職 17.1%、
その他（家事手伝い等）38.8%

（概要）

平成 21 年度は、開校 4 年目にあたり学校運営の基盤をより一層強固にした年度であった。
在籍生徒数は、744 名（平成 21 年 3 月末）から 1193 名（平成 22 年 3 月末）まで大幅に増加した。

平成 21 年 9 月に 14 名、同 12 月に 3 名、平成 22 年 3 月に 368 名の卒業生を送り出し、開校以来の通算で 989 名の卒業生を世に送り出した。また、多くの卒業生が希望する進路へ進んだ。

生徒数の増加に応じ教員 7 名を増員した。

【当初目標の進捗率】

生徒数 1193 名 ÷ 入学定員 2000 名（当初目標） = 59.7%

(自己評価)

■成果が認められる点：

- ① 在籍生徒数が前年度から引き続き大きく伸張したこと。
- ② 多くの生徒がスクーリングに参加し、大子町で自然体験活動等を行ったこと。
- ③ 多くの卒業生を送り出したこと。
- ④ 卒業生の多くが希望の進路へ進めたこと。
- ⑤ 生徒数の現況及び学則に沿った適切な教職員の配置を行っていること。

■さらに努力すべき点

- ① 在籍生徒数が当初目標（入学定員 2000 名）に対して 59.7%であるため、教育内容の充実を含め一層の努力を行うこと。
- ② 電話・eメール・Web カメラ・定期便の郵送等によるコミュニケーションを徹底し、連絡事項の伝達、学習モチベーションの維持、学習ペースの管理など生徒フォローをさらに充実させること。
- ③ 進路指導及び受験指導の充実、指定校数の拡大など、進路支援に一層注力し、より多くの生徒の希望進路を実現すること。特に経済事情を踏まえ就職志望者のケアを充実させること。

2. 目指す学校像

ルネサンス高等学校の建学の精神は、「教育のルネサンス（再生そして進化）」。その実現のため「一人ひとりの可能性を追求する」「目覚めよ！自分力」を教育理念とし、次の5つの支援体制をとっている。

- I. eラーニングシステムを使って基礎学力の徹底
- II. 学ぶ楽しさを体験する科学の授業等を通して生涯学び人を育成
- III. 高校課程を速習し、残った時間を海外留学や進学対策に活用することを支援
- IV. 芸能・理美容・海外留学等の提携するスクールとのダブルスクールによって「やりたいことにチャレンジする」ことを支援
- V. インターネットをはじめとする最新 IT をフル活用して徹底的個人指導と親身なサポートによるユビキタス学習を支援

(自己評価)

■成果が認められる点：

- ①インターネット又は携帯電話を使ってレポート提出が出来るシステムを有しており、生徒がいつでもどこでも学習できる環境を実現していること。
- ②学習の根幹であるレポートの問題について外部の有識者も含めた専門の担当者による設問検討会を実施し、より一層の自学自習を促す問題の研究をおこなっていること。
- ②スクーリングの理科・美術の授業に、「仮説実験授業研究会」(※)をリードするベテラン教員を起用し、学ぶ楽しさを体感する機会を提供していること。
※ 仮説実験授業研究会：1963年に板倉聖宣氏が提唱した科学教育法「仮説実験授業」を研究する会。小・中・高等学校の教員を中心に会員数約1300名。
- ③スクーリング時、大子町の豊かな人文・自然環境のなかで体験学習を提供していること。
- ④芸能コースや海外留学コースなどを設定し、実際に生徒がチャレンジしていること。

■さらに努力すべき点

- ①スクーリングの体験学習の内容に一層のバラエティを持たせること。
- ②基礎学力が十分身についた生徒のために、より高い学力の獲得を目指すプログラムを整備すること。

3. 生徒指導

担任教員が日常的に電話・eメール・Webカメラ・面会などの方法により、生徒や保護者の悩みや要望を把握している。各生徒について担任が指導の経過に関する記録を作成し、その行動特性や変容を見定めており、定期的な職員会議にて情報の共有を行っている。特に配慮を要する生徒については養護教諭を含めた関係職員間の更なる情報共有を図り、適切な対応を行っている。

生徒指導及び進路指導担当の教諭を配置している。

(自己評価)

■成果が認められる点：

- ①担任教員が適時かつ定期的に接触を持ち、生徒及び保護者の相談にのるなどの生徒指導を行っていること。
- ②入学時等に生徒のeメールアドレス・携帯メールアドレス等を把握し、個別の指導にあたり、効率の高い接触方法を確立していること。
- ③直接コミュニケーションの機会増大を図るため、主要都市に設置した入学相談センターに教諭の有資格者を配し、近隣に住む生徒への指導機会を拡大していること。

■さらに努力すべき点

生徒とのコミュニケーション機会の充実のため、入学相談センターの更なる充実を図り、指導・相談・イベントの開催などを行うこと。

4. 施設及び設備

本校の校舎は、「高等学校通信教育規程」に規定する施設（教室、図書室、保健室、職員室）及びスクーリング時の教育に必要な設備（視聴覚設備、図書、保健関係備品等）を備えている。

また、本校は、旧浅川小学校の校舎・校地活用という地域ニーズに基づき設置されたため、旧小学校の校舎面積及び校地面積をそのまま引き継ぐが、教育活動に支障が生じていない。

（自己評価）

■成果が認められる点：

- ①本校の校舎は通信制高等学校の校舎として十分な施設・設備を備えていること。
- ②歴史ある校舎及び校地を良く保存したうえ、四季の変化に応じた草花の整備など校舎環境の美化に努めていること。
- ③適時に修繕（雨漏り防止工事など）を行い、給水設備及び飲料自動販売機を新設するなど、生徒の利便性の向上・安全衛生の確保に努めていること。平成22年3月には次年度以降の受け入れ生徒数増大に向けトイレの改修・増築をおこない、安全衛生の更なる向上を図った。

■さらに努力すべき点

歴史ある校舎及び校地で生徒が1年に1回のスクーリングを快適に履修できるように、校舎環境の美化・適切な修繕など、より一層、利便性の向上・安全衛生の確保に努めること。

以 上